

# 自問教育の会

EOSA Education of Self-Asking

発行日：2017（平成29）年9月26日 No.10

発行者：自問教育の会（会長：小林慎一）

編集：自問教育の会事務局（丸山 斉藤 白澤 吉川 牧 北村 新津 松島 市川 片岡）

事務局：長野県諏訪市清水3丁目3619-3 諏訪市立諏訪中学校内 丸山 博

連絡先：TEL0266-52-0908 FAX0266-52-0917

URL：http://jimon.3zoku.com/

問い合わせ先：http://jimon.3zoku.com/php/sformmail.html

## 平成28年度 第25回全国自問教育の会 報告

会場：長野県塩尻市立塩尻中学校

研究テーマ

### 「友と関わりながら自らを問い、自ら伸びる子どもたちの育成」



第25回の全国自問教育の会は、長野県塩尻市立塩尻中学校にて開催されました。3学年の清掃参観の後、3年4組において道徳の時間の公開がありました。清掃の後に書く、生徒の作文の中から、担任が選んだ作文を資料として1時間考え合う時間です。

実践発表や実践情報交換では、レポートについて討議をしたり、日頃の実践を紹介し合ったりと、毎年の事ではありますが実に中身の濃い2日間となりました。それぞれの学校へ持ち帰り、各自の実践を深めてください。

#### 【1日目】

- 清掃参観（清掃前の話） 丸山 博
- 道徳の時間授業公開
  - ・主題名「楽しいってどんなこと？」
  - 指導者 自問教育の会理事 平田 治
  - 授業者 3年4組担任 宮澤 永
- 開会行事
  - 開会の挨拶 自問教育の会会長 小林 慎一
  - 会場校挨拶 塩尻市立塩尻中学校長 柳生 高広
- 実践発表 立科町立立科小学校 北村 和行
- 実践情報交換
  - 大坪先生（牧野中）、稲田先生（東海中）
  - 芝沼先生（峰山中）、上村先生（木曾町中）
  - 大谷先生（松島中）、丸山先生（城南小）
  - 市場先生（東伊那小）、渡辺先生（桜小）

#### 【2日目】

- 実践発表 茅野市立湖東小学校 片岡 聡矢
- 実践情報交換
  - 新井先生（寝屋川西小）、本間先生（田代小中）
  - 津田先生・橋本先生（久米中）
  - 福井先生（野々市中）
- 実践発表 北相木村立北相木小学校 新津 由紀
- 実践発表 便器専門クリーニングハビレット社長 日吉 慎一
- 実践発表 静岡市立富士見小学校 小笠原寿彦
- 実践情報交換
  - 井口先生（湖東小）、大道先生（長地小）
- 閉会行事
  - 閉会の挨拶 自問教育の会会長 小林 慎一

# 第26回全国自問教育の会

# 開催決定!

【清掃参観】 長野県松本市立会田中学校

【実践交流会】 松本市本郷公民館

【開催日】12月1日(金),2日(土)

本年度の大会は、松本市立会田中学校にて、清掃参観を行った後、松本市の本郷公民館へ移動し、実践交流会を2日間にわたって行う日程に決定しました。



## 日程《1日目》

受付

13:15 ~ 13:35

清掃参観

13:35 ~ 13:55

移動

13:55 ~ 14:45

開会行事

14:45 ~ 15:00

実践交流会 I

15:10 ~ 17:15

情報交換会《松本駅前》

18:30 ~ 21:00

## 日程《2日目》

実践交流会 II

9:00 ~ 12:00

昼食

12:00 ~ 13:00

実践交流会 II

13:00 ~ 14:40

閉会行事

14:40 ~ 14:50



松本市立会田中学校

会長 ご挨拶

自問教育の会会長 小林 慎一

今年も8月9日に、自問教育夏季学習会を開催しました。9人の先生方に参加していただき、それぞれの1学期の活動の振り返りを中心に熱く語っていただきました。ある中学の先生が、汚れている男子トイレをきれいにしたいと思い磨いていると、まるで新品のようにピカピカに輝いてきました。それを見た女子トイレの掃除をしていた生徒たちが、自分たちもやってみたく、気持ちを先生に伝えてきた、という話がありました。管理される清掃に慣れ切っている生徒には、時間内まじめに働けばいいとは思うものの、どこまでやればいいのか、何をすればいいのか、という自分自身への問いが出てこない。結果を見て素直な感動する心は持っているのに、何をすればこうなのかという過程に問いを持ち、自ら考えて活動する力の弱さがあるのでしょうか。自問清掃という形を教える前に、自ら気づいて清掃という活動に入っていき活動を受け止め、子どもたちが育っていく掃除へと変えていくことができる援助が大切であると思いました。

ネットを検索すると、学校掃除についてのページが多く出てきます。その中で、自問清掃を重点として子どもの心を育てたいと進めている学校もたくさん見られるようになり、実践の様子が参考になります。自問清掃を子どものマイナス面を改善していくだけの手段としての取り組みにとらえずに、子どもの心のなかにもともとある人間としての成長の芽を見つけ、伸ばしていくものととらえて進めることが大切だと思います。

今年も、大会を計画しています。また、全国の皆さんと熱い語らいができることを楽しみにしています。

## 実践の中で

# 自らを高める自問教育



竹内隆夫先生

## の手引き

### 新たな発想による清掃活動

—人としての成長を願って—

竹内 隆夫 著

#### <目次>

すいせんの言葉(第4号掲載)

1. 実践の場こそ(第4号掲載)
2. 紆余曲折を経て(第5号掲載)
3. 自由とは迷惑をかけないこと“人の痛みがわかる”(第6号掲載)
4. 心を汲む気働き“人の心がかくめる”(第7号掲載)
5. 創造と発見“人のねうちがわかる”(第8号掲載)
6. 感謝の心で自分との違いか許せる”(第9号掲載)
7. 正直ということ“胸に自分なりの尺度ができる”(第10号掲載)
8. 教師のあり方
9. 理念の背景

あとがき

(まとめてお読みになりたい方は、事務局までお問い合わせください)

## 7 正直ということ

かつて日本文化会議が「日本に教育はあるか。」と題し、当時の、著名人による提言と討議を収録した本を出版した。その中で何人かが個人主義の行き過ぎや精神の荒廃を問題にしていたことがある。あれから20年、私は今、「日本に倫理はあるか」と問いたいと思います。なぜなら今

の日本では一番偉くなると次は刑務所へ、というコースがおきまりだからです。総理大臣、県知事、市長、NTT、政界、財界、官界のトップに座るとそこから手錠が待っています。国会も何のために存在しているのかわかりません。議員さん達は多額の金を使いながら、次は誰を引きおろそうかと待ちかまえて、一人ひとり喚問台に乗せながら「いじめ」の実態を示してくれ

ています。極楽から地獄へ落ちる様子を現したモニュメントがロダンの手で作られ、上野の美術館前にそびえているが、まさに日本のシンボルのようではありませんか。西欧では幼児期から教会に通い、宗教教育がバックボーンとなっていて神に誓い不正ができないと言われます。日本は教育計画の中でその役割を担わなければならないように思うのです。「道徳」の時間は特設されたものの、理屈をこねまわすだけで、正直な人間が育てられてはいません。私はこのプランの到達段階で、正直に生きることのよさを体で味わわせようと考えました。

## 姿を消した“正直”

小学生に向かって「皆さんの中に、掃除の時、先生が見にこられた時はまじめに働き、先生がいなくなると怠けたことのある人は手をあげてください」と言うと、大勢が、「はい」と手をあげます。子供とはなぜこうも正直なのだろう、と思い、太古の人類は正直であったからであらうなどと想像させられます。続けて子供達に「そういう生き方について皆さんはどう思いますか」と聞くと、また大きな声で「やばいで一す」と答えます。「そうだね。裏表を使い分けるような生き方はやばいですね。もっと正直に生きた方がいいね」と話します。ところが中学生になると、もう正直に答えなくなり、反対に見事に裏表を使い分けます。店員が見ていなければ店の品物にも手を出します。現行犯でつかまると、後で友達から、「どっちなのか、ばか」と笑われます。うまく使い分けた者がりこうで

へたなのがばかなのです。昔は「壁に耳あり障子に目あり」とか「神様がみているよ」などと教えたものですが、今の子供に神様はいなくなり、恐れるものは無くなってしまいました。先日もある中学校で生徒達が数人箒を持って庭掃除をしていました。中程に担任の先生が庭木の手入れをしていました。ふしぎな光景なので見ていました。というのは、先生に見える側の生徒はせっせと等を動かしているが、先生の背後の生徒はほとんど動きません。手を休めたり等をバットのようにはふりまわしています。どの子も半身に構えて、先生の体がどちらを向くかはそれとなく見ているのです。そのうちに先生がくると向きを変えました。とたんに生徒の動きは逆転し、先生の視線の側はいそいそと箒きはじめ、同時に裏側の生徒はやおら手を休めて遊びはじめました。どちらの生徒も見事に先生の動きからは目を離しません。決して油断はしないのです。あたかも先生からのサーチライトに照らされるように視線の側だけが生きかえるのでした。

恐らくその先生からは、みんなよく働いているものと映るでしょうが、横から見ていると、狐にばかされている狸先生に見えるのです。先生は庭木の手入れをしながら、実は看視に来ていることまで生徒に見抜かれていたようです。どうやら、私達は敗戦によってヤミ値ヤミ米をくぐって命をつなぐ間に、「心に正直に生きる」という徳を見失ってきたのでしょう。要領よく裏表を使い分けることを当たり前と思うように

なったようです。その証拠に、先日退職校長会が、全国の退任された校長達に、「どんな子供にしたいか」という問いで集めたアンケートの結果を見ても、多い順に 20 も並んで書かれた徳目の中に、「正直」はありません。古人は日本人の心を「朝日ににおう山桜花」に例えましたが、大戦を境によごれた山桜になったようです。

## 競争はあるが教育はない

中谷宇吉郎博士が、アメリカの大学に招かれて、家族ぐるみで渡米され、お子さんをアメリカの小学校へ転校させた時のことです。校長室で、「この子は日本語しか話せませんが、あずかっていただけですか」とお願いし、ついでに、「校長先生の学校経営のご方針をお聞かせください」と尋ねますと、即座に「裏表のない正直な子供にしたいのです」と答えられたそうです。

小学校は知識をつめこもうとする所ではない。まさに人間教育の場なのだ、と共感され、「日本にこの見識があるだろうか」と語っておられました。

かつて OECD の教育勧告団から、恥ずかしながら、「日本には競争はあるが教育は無い」とまで言われました。すでに義務教育の目的が土台から狂っていることを指摘されたのに、改めようとする気配もありません。私のこのプランの最終段階に、切り札として、裏表なく正直に生きることのさわやかさを体験させ、その徳の回復を願うことにしました。

全校朝会の講話では、  
「すでに皆さんは前の段階で自分の心に尋ね、

感謝の心で働けるかを自問できるまでになりました。そこで最後に、皆さんを信じて、今日は働くか働かないかまで含め、一切自分自身の心を尺度にして正直に過ごす時間にしたいと思えます。ですから先生が見えておられようがおられまいが、よいと判断したら遠慮しないで、悪びれずに堂々と休んでよいことにしたい。どんな理由であれ、それは問わない事にします。この時間どう過ごすのかの判断はめいめいの心で決めるのです。昔、中国に孔子という人がいて『己れに従って則（のり）を越えず』と言われました。自分の判断で何をしてしてもま違うことがなくなった、と言われたのです。この時間はそういう自主的判断にしたいのです」と全幅の信頼をかけることにしました。

## 信頼関係で汚名返上

前年まで最大の万引き事件を引き起こしていた学校でしたが、信頼をかけ抜くことによって、彼らの生活態度は 180 度変わりました。だらしない髪も、皆理髪店へ行って中学生らしいスポーティーな髪型に変わりました。女生徒も肩にかかる長髪はすべて消えました。そしてこの時間は一人や二人の生徒が休んでいても、堂々と胸を張っているのです。他の生徒はそれを認めて作業に取り組むのでした。小学生も、この段階になると、すばらしい感想を綴りました。

「前にはしかたなしに、いやいやながら働いていたから、自分の本当の心ではなかったのです。この自問ではやる気が出なかったり、仕事が見つからない日は、邪魔にならないように座って

いていい。やる気になったらどんどん仕事を見つけて働きます。自分の意志で働ける。やるのも休むのも自分の心に問いかけて自分できめるから自由です。自分の本心なのです。自分の心を見つめ、美しい心がわいてくるのを待って、その心に従って働くので気持ちがいいのです。一生懸命やる気でやればやるほど自分の長所がたくさん見つかってくるので、清掃がうんと楽しくなった」

また、

「自問の清掃をやっていると、心がだんだん大人になっていくのがよくわかります。悪いことをした人だって、かならずよい心、澄んだ心になるに違いありません」

中学生の感想に、

「私はどうしてもいやだという時は休ませてもらいます。そんな時に掃除をしても、いやいやながらやっているのだから、かえってその場を汚してしまうと思うからです」「今は休ませてもらうのは、体の調子の悪い時だけです。掃除をしていない時もあるが、それは自問、すなわち心の掃除をしているのです」

また中学3年間これに取り組んだ生徒がこう綴っています。

「3年間の中学校での自問活動の中で、自らに問うことの意味とその大切さがわかるようになった。授業態度の向上も生活態度がよくなるのも、いつもこの清掃態度がかかわっていたのです。授業が悪くなる時は清掃も乱れ、自問がよくなると授業もよくなるという調子でした。授

業中に私語をしたいと思った時、自らに問う心構えがあれば、きっとその気持ちを抑えることができるだろう。この心構えが弱ければ、他人に迷惑をかけていることにさえ気づかないだろう。私は3年間で、自問清掃によって自分自身を見直すよさがわかってきました。そしてそれによって感謝の心も欲望を抑えることもでき、また今していることが他人に迷惑がかかっているかを考えるようにもなりました。自分の心を自分で鍛えることができるのです。これからは、自問清掃をする機会はないかもしれないが、この自問の心構えだけは一生失わないようにしたいと思っています」

先日、県の中学校長会が、K郡の高原であつて先生方が同じ大型バスに乗りこまれました。すると、たまたまそのバスガイドさんが、私が校長をしていた時の卒業生でした。

「校長先生方、ご苦労さまです。私は中学生の頃竹内校長先生から自問清掃の教育を受けました。今も感謝し、誇りに思っております」とあいさつをしたそうです。同乗された校長さんから、そんな報告もいただきました。

(次号へ続く)



## 実践者たちの声

全国に広がりを見せている自問清掃。実践者の先生方に声を寄せていただきました。ご意見ご感想がありましたら、事務局までお気軽にメールなどでご連絡ください。

### 自問活動情報交換会in愛知について

愛知県尾張旭市東栄小学校 川上 淳

愛知県で自問活動の情報交換会を開催して、3年目になります。きっかけは、自問清掃教育研究会・大阪でした。何度か参加した大阪自問の会に、名古屋市の先生が参加されていたのです。その後、その先生と連絡を取り合い、気軽に話し合う場を設定したいと考え、平成27年3月、第1回情報交換会を開きました。場所は名古屋市の小さな喫茶店で、5名の先生方の参加から始まりました。

愛知県の自問活動情報交換会は、年3回程度開催しています。場所は、尾張旭市新池交流館「ふらっと」や長久手市「文化の家」の研修室等を借りています。内容は、自問清掃・活動に限定せず、「自主学习ノート」や「イエナプラン教育」など、児童・生徒が自主的に取り組む実践についての情報交換も行っています。メンバーは少しずつ変わっていますが、参加人数は10名前後です。小学校や中学校の先生だけでなく、保護者やコンビニ経営者の方にも参加していただいたこともありました。

毎年11月頃には平田治先生を講師として招き、実践発表に対してのご助言をもらっています。平成28年2月に開催した第4回の情報交換会では、愛知県出身の片岡聡矢先生にも参加していただき、自問清掃との出会いや実践報告をじっくり聞くことができました。

保守的で、管理的な教育の傾向が強い愛知県では、自問清掃のような児童・生徒の自発性を信じて待つ取組はなかなか根付かず、広がって

いきません。しかし、そういった背景の中で、指示や命令がないと行動できない子ども達の姿を見て、自問清掃・活動の理念に共感する先生方が少なからずいます。そういった意味で、意思の強い人々が集まるこの会は、意義があるものだと感じています。

自問清掃・活動は、基本的な考え方はあるものの、学校や児童・生徒の実態に合わせたものなので実践方法は様々です。実践してみて感じた悩みや問題点を参加者で共有し、様々な視点から皆で考えることによって、解決の糸口を見つけることができます。

自分自身も、とにかく清掃させて「がまんする力」・「しんせつにする力」・「みつける力」を伸ばそうと取り組んでいたのですが、気働きへの意識が低いのに悩んでいました。しかし、会での話し合いによって、内省化を図るには、振り返りノート等に書かせることがいかに大切かを学ぶことができました。その後、清掃後に自分が感じたことをノートに書かせ、道徳の授業などで様々な児童の様子を紹介しています。

また、同じ意思の人たちが集まることによって、自分一人だけでないと勇気づけられます。これからも続けていこうという活力をもらうことができるのが何よりです。

次回は、平成29年11月18日（土）に名古屋市の「ルブラ王山」で第8回の自問活動情報交換会を開催する予定です。小さな会ですが、無理せず長く続けていきたいと考えています。



## 私の尊敬するKさん

北相木村立北相木小学校 新津 由紀

私が自問清掃に出会って4年目の平成27年4月、東京から山村留学に来たKさん(小3・男児)が私のクラスに仲間入りした。出会った当初の彼の印象は、頭脳明晰・スポーツ万能、いわゆる「優等生」そのものだった。しかし、気になる点もあった。友達より上に立って物を言う、行動が早い自分にペースを合わせられない友達に対する指示・命令、苦手なことに直面するとあらわになる心の弱さ……。お母さんにこの話をすると、お母さんも私と同じことを感じていた。その日から、自問清掃を通して彼の中に何を育てられるかという私の挑戦が始まった。

彼の自問ノートの記述は、こちらの方が深く考えさせられるような記述ばかりだった。時々道徳の授業の題材として使わせてもらった。例えば、こんなことを書くKさんである。

(3年時)11月27日(金)

今日は疲れていてやる気が出なかった。だから、最初の黙想で落ち着かせ、端っこの方で自問した。そして、自問清掃は何のためにやっているのかを考えた。そうしたら、こんなことを思いついた。まずは、基本のがまん玉・しんせつ玉・みつげ玉をみがいて、その行動を日常生活にも出すということだ。そして、気をつけなくても普通にできることだ。このことを考えられたので、月曜日はやる気を出して頑張る。

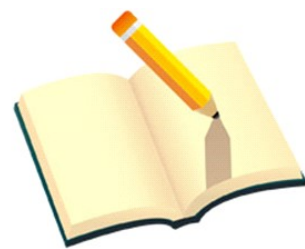
(4年時)10月28日(金)

今日は、ドアのレールをやった。少し前にやったばかりなのに、虫や砂がたくさん落ちていた。今日で2回目だけど、まだ取れていない汚れがある。なかなか取れない。けれど、汚れはねばり玉だ。コツコツやって汚れを取る。それができる人になりたい。レールを掃除している

最中に気づいたけれど、レールの横の床とレールの隙間にもたくさんゴミが詰まっていた。やりたくなってくる…。けれど、レールに向き合わなければ!レール掃除が終わったらやるという目標が、また一つ増えた。月曜日もこういう目標を見つけたり、汚れを一つでも多く取ったり…そういうことをして自問マスターに近づきたい。

2年間の山村留学を終え、彼は地元東京の学校に転校していった。転校する直前に書いた一年間の振り返りには「僕は、自問清掃を通じて人のことを考えたり今自分がしている行動は正しいのか?と問い返し判断したりできるようになった。」と書いていた。3月にお母さんからいただいた言葉の中には「自問によって、お蔭でいい心の根っこが張れました。これからせっせと愛情を注いで、枯らさないように頑張ります。」とあった。今年の5月、5年生になった彼の様子がお母さんからのメールで知らされた。「自問清掃、こちらの学校でも一人毎日続けているようです。他の子が適当に掃除している中、形だけではなく、物を退けてそこまで?という所まで雑巾をかけてピカピカにするそうです。担任の先生が、本当に素晴らしい!と感動されていました。」こんなにも嬉しい言葉はない。

この2年間で、Kさんはまるで別人のように変わった。誰かの行動が遅かったり何か失敗したりしても、おおらかな心で笑い飛ばしたり温かな心で声をかけたりするようになった。後日お母さんからいただいたKさんの自問ノートのコピーは、私の一生の宝物である。





## 「子どもたちからのメッセージ」

立科町立立科小学校 北村 和行

担任をしている今の学級は、自問清掃に取り組み始めて3年目を迎える。「自らを問う」ことで、様々な気づきをしてきた子どもたち。最近の子どもたちの自問ノートから感じたことを記してみたい。

---

### A児の自問ノートより

今日は、ほうきをやりたい気持ちだった。でも「できない。」という気持ちの方が大きかった。理由は、Aさんにほうきをやってほしかったからだ。正直言うと、Tさんの振り返りノートを見てしまったからだ。小さいほうきと大きいほうきのメリットとデメリットを比べていたと思う。だから、今日はやらなかった。

ぼくは、こんなことは初めてできたから、少しうれしかった。

---

つい目にしてしまったT児の自問ノート。そこには、T児の清掃に対する思いが綴られていた。その自問清掃における思いに触れることで、T児の箒での清掃を邪魔しないという行動を取ったA児。この満足感が得られた行動には、T児の自問清掃が大きく影響していると感じる。

---

### H児の自問ノートより

今日の掃除でKさんが座って自問をしていた。他の学年から見ると「あいつ、何で掃除そばにいるの?」とか「何で掃除やっていないの?」など、座って自問していることに対して、傷つくことを言われることもあるだろう。でも、きっとKさんと同じ教室掃除の人は、Kさんが座

って自問していることに、疑問は持たなかっただろう。私も思わなかった。だって、Kさんは、自問していた分、絶対どこかで自分たちのためになることをしてくれる。今日もそうだった。6時間目の図工の時間に私の机の上にあった木くずを、小ぼうきとちりとりで片づけてくれた。私がお願いしなくても。

だから、私も堂々と座って自問できる自分を目指していきたい。

---

座って自問するK児の姿を肯定的に受け止めるクラスメイト。その理由は「K児の日頃の言動にある。」と、H児は言っている。K児のように、自分の心の正直に行動していきたいという気持ちが伝わってくる。H児がこう思えたのも、K児の自問清掃が大きく影響していると感じる。

友の自問する姿を介して、自らの姿を問い返すという子どもたちの姿勢から、「自分の取り組みは独りよがりになっていないか。」という問いが生まれてくる。果たしてどうだろう。考えれば考えるほど、もっともっと子どもの姿を知りたくなる。子どもたちは、私自身にも自らを問う機会を与えてくれる。ともに学び、ともに成長していく自問清掃でありたいと思う。



# 事務局便い

H29.1.6(金)・・・3学期の始業式を迎えたこの日、ヤフーニュースに次のような記事が掲載された。

## 高1が涙、道に散乱した紙拾い集め 鴻巣署が感謝状…見ないふり辛い

埼玉県鴻巣市は4日、県道に散乱していた古紙を一人で回収した行田市在住、県立鴻巣高校1年の湯本里咲さん(16)に感謝状を贈った。見て見ぬふりをして通り過ぎる自分を受け入れられず、後先のことを考えずに一心不乱に集めた行動は、周囲の心を揺り動かした。

自転車で通学している湯本さんは昨年12月21日夕方、鴻巣市屈巢の県道を通りがかった際、新聞紙や折り込みチラシが半径約3メートルにかけて大量に散乱しているのを目の当たりにした。一度はそのまま通り過ぎたものの、「何もしていない自分に辛くなった」と戻って来た。

当初は古紙を自転車の前かごに積んで自宅を持ち帰ろうとしたが、収まり切れない。約500メートル離れたコンビニエンスストアへ行き、ゴミ袋を買って戻り、再び拾い集めた。現場は交通量の激しい通り。湯本さんは青信号になるたびにひたすら拾い続けた。

H29/1/6 埼玉新聞

なんと素敵な行動なのだろう。中学校を卒業して1年経っていない高校1年生の行動である。そして、何よりも我々が心揺さぶられるのは、この高校生の「何もしていない自分に辛くなった」という思い、感覚である。

ゴミが落ちていたら拾うべきだ・・・誰もが分かっていることだ。ところが、その行動を起こすには相当な勇気、強い思いが必要となる。学校の環境を整えておく義務のある私たち教員ですら、校内の廊下を歩いている時に見つけたゴミを見て見ぬふりをする人が多いのではないだろうか。一方、この高校生は交通量の激しい交差点で行動している。しかもたった一人で。「すごい」としか言いようがない。私たちは、こんな生徒を育てたいのだ・・・改めて教育の目的を問いただされた思いがした。

道徳の教科化が目前に迫ってきた。検定教科書が用意され「考え、議論する道徳」に向け、各校では年間指導計画を作成し計画的な学習を推進していくことが必要となる。しかし、それだけで子どもたちの道徳性が高まり、道徳的実践につながるはずはない。今回の道徳仕切り直しにおいて、自問清掃の魅力を広く発信していきたい。

(事務局長：丸山博)

## 《編集後記》

昨年度は、長野県の塩尻市立塩尻中学校にて、充実した2日間を過ごすことができました。この会も毎年継続できていることに感謝しつつ、本年度の会についても2ページ目にある通り、決まっています。道徳教科化も目の前に迫ってきて、道徳に関する研修会には、多くの人に参加するようになってきています。自問活動は、道徳教科化に向けて求められていることが、具体の形として実践し続けてられてきた古くて新しい教育活動とも言えます。

本号でも竹内先生のお書きになられた「実践の中で自らを高める自問教育の手引き」を紹介させていただきました。今回の章は、自問清掃における根幹となる部分でもあります。私も、実践していて感じることは、子どもの心の虚飾がはがれ、固かった心が少しずつ柔らかくなり、自分で考え行動することに喜びを感じ、仲間と認め合えるようになってくると感じています。

子どもが自らの心に問いかけながら成長していく過程をしっかりと見つめ、子どもと共に成長していく教師でありたいと思います。本年度の会場も決定しました。是非、多くの先生方に集まっていただき、毎年繰り広げられる暑くて深い議論に参加していただきたいと思います。

(文責：片岡)